

# 事業所における自己評価アンケート

事業所名 清瀬市子どもの発達・交流センターとことこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 良い点	工夫してほしい点 改善してほしい点
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15		安全面に配慮している	
	② 職員の配置数は適切である	15		利用者人数によって職員の人数を変えている。多職種の職員で構成されている。	子どもよりスタッフの人数が多い、要改善。相談部門と兼任している職員が多いことは気になる(チームワークのと切にきさ、相談部門が手薄になる)毎日みている職員がもう少しいると良いのか。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	15		毎日こまめに清掃している。利用児が安心して過ごせるように環境整備を行い、視覚情報で見通しを持ちやすい工夫を行っている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。感染症対策は適切に行われているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	15		特にコロナ禍においては感染症対策を徹底した。子どもたちにも意識してもらうためにわかるように説明をし部屋の移動前後は手洗い又は手指消毒を行った。清潔で、着替えやトイレのプライバシー保護も配慮している。感染症マニュアルを基に日々チェック項目を欠かさず確認している。	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	15		PDCAサイクルは今年度見直し、確認を行っている。	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	15		保護者会の持ち方、就学支援に向けての面談強化など改善した、	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15		嬉泉ホームページに報告している。	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	1		今年度は行ってない。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15		ケース会義や事例検討会を行っている。内部研修、外部研修に積極的に全員が参加している。	
適切な支援	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14	1	今までは支援計画前(楽器に一度)だったアセスメントの見直しを今年度から毎月行った。毎月個々のアセスメントの項目事項を確認し、支援計画につなげている。	さらなる検査結果の活用が必要。検査担当者や依光に結果や支援方針を共有できると良い。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	1	発達検査、知能検査の実施をしている。	検査結果の活用をもっとしてほしい。

<p>の提供</p>	<p>⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている</p>	<p>15</p>	<p>地域支援、家庭支援等に対し具体的な地域資源を紹介し、必要な連携もとっている。所属先の園の見学や情報共有を行い支援につなげている。</p>	
------------	---	-----------	---	--

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	15		日々確認し、適切な支援ができていないかをカンファの時間をとり話し合っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	15		ことば・コミュニケーション、表現、政策、運動など保育領域に準じてプログラムを構成している。領域ごとに月案を縦ている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	15		様々な専門職が参加している。個人作品やグループで作る作品などそれぞれの目的があつてよい。様々な職種が参加している。月の目標、ねらいを置くことで固定化したプログラムにならないよう工夫している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	15			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15		日々の振り返りとは別に、週1のミーティングを行っており、その中で確認打ち合わせを行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	15		日々療育終了後、カンファレンスの時間をとっている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15		個人の記録だけでなく、グループとしてのヒヤリハットと事故についても記録して、翌朝までに職員で共有している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	15		3か月に一度、モニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15			参加できる職員がもっと増えた方がいい
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	15		保護者や所属園からの要望に応じることはもちろん、こちらの必要に応じても行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13		今年度はいない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えている	13		今年度はいない。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15		所属園に対し、必要に応じて見学、支援会議を行っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15		必要に応じて行っている。	

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	2	センターとして取り組んでいる。	
	㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10	5	<p>コロナもあり直接的な交流はされていないが近隣の保育園から段ボールトンネルやヨーヨーをもらうなど間接的な交流はある。</p> <p>今年度は利用児全員に所属園があり障害のない子どもとの交流を持っている。</p>	<p>並行通園で所属園で交流の機会を持っている子どもが多い。</p> <p>コロナで交流は難しかった。徐々にできると良い。</p>

	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	15			
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15		送迎時や連絡帳を活用し、相互で共有できる工夫をしている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	15		今年度は年に3回実施した。	
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	15			児童発達支援計画の説明はしているが児童発達ガイドラインのねらい及び支援内容に基づいているものであるということをしっかり伝えていなかった。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15			
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	15		保護者会を年に3回、保護者交流会(卒園生の保護者)を開催している。	
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	15		なるべくタイムリーに面談の場を設けている。必要、緊急時には電話対応も行っている。	
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	15		月に1回とことこ便りを発行。日々の連絡用にホワイトボードも活用している。	
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	15			
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15			
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	3	年に2回、地域の方に向けてとことこ講座を開いている	
	非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	15		
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	15			
④③		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	15		看護師を中心に保護者との面談、マニュアル整備を行っている。	

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15			
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15			事例集の記録をどうまとめるか(年度ごと、今までの事例も含めたまとめ方)の検討が必要。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	15		法人全体としての研修や職員会議等で実施している。	事業所内の虐待防止委員会としての機能をもっと活性化したい。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		1	年度当初の子どもの状態によりやむを得ず部屋の施設を行う場合には会議などで検討する必要があることを職員全員に周知している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。